

# 「被災地の子どもたちに音楽・芸能を届けよう！」プロジェクト2014

## 事業報告書



### 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

#### ◇事業の趣旨

震災から4年余が経過しましたが、地域の復興の将来展望は見えにくく、まだ仮設住宅で不自由な暮らしをしている方々も多くいらっしゃいます。子どもたちが仮設の学校に登校せざるを得ない地域もあります。

当協議会では、東日本大震災直後から文化芸術を通じた震災復興プロジェクト事業を実施し、被災地の自治体等と協定を結ぶなどして地域との結びつきを強めてきました。その経験を踏まえ、2014年度は東北3県の学校などを訪問し、子どもたちに音楽・芸能を届け交流する機会の提供を継続しました。とりわけ外遊びがしにくい福島県では、子どもたち対象の多様な事業へのニーズがあり、行政提供の事業だけでは学校等の要望が全ては満たされていない実状があります。当協議会でも福島県内の学校での実施に力を入れてきました。

## ◇実施内容

音楽、マジック、演劇、その他さまざまな芸能実演家によるパフォーマンスや体験の機会を被災地の学校や地域で子どもたちが集まれる場所で提供しました。当初、15 か所程度を想定していましたが、1人ないし2・3名の派遣で実施できる小規模なコンサート、公演を増やし、最終的には33か所で公演を実施することができました。実施概要は、P7～8の表のとおりです。

個々の企画の実現までの準備は、公益社団法人日本奇術協会、子どものための舞台芸術創造団体の会、日本音楽家ユニオン東北地方本部・スマイルプロジェクト実行委員会の方々の協力を得て、福島県および文化協定を結んだ地域を優先し、実演家派遣の場所を選定してきました。会場となった場所の大部分は小学校や幼稚園・保育園などですが、NPO法人の受け入れにより、地元の方々への支援イベントの一環で仮設住宅の集会場などでパフォーマンス等の実施をさせていただいたところもあります。

## ◇派遣実演家たちからの報告

### ○演劇公演『君がいるから』

劇団 CAN 青芸 於：福島県 田村市立西向小学校 2014/7/27



福島県、西向小学校での公演は、学校での実施でしたが、授業の期間ではなく、夏まつりイベントの一環でした。PTA主催の夏まつりイベントで、イベント開始までPTAのみなさんがおまつりの準備をしている間の時間を活用しての公演でした。

観劇したのは、全校児童62名に加え、中学生10名、保護者18名、教師8名。例年は、県内のアマチュアグループを呼んでいたそうですが、ぜひ、しっかりと面白いものを見せたいという校長先生のご要望をうけて実現しました。大人も子どもも随所で大き

な笑い声をたて、後半のシリアスな場面では食い入るような眼差しを向けていました。教室ふたつ分くらいの小さな空間でしたが、まさに舞台と客席が一体となった素敵な公演でした。

終演後の搬出や、祭りの出店での交流の際に、「よかった」「面白かった」という声をたくさんかけてもらいました。この地域は、地震の時には直接的被害は少なかったようですが、風向きにより放射線の心配があり、保護者も先生方も緊張がなかなか解けないでいる地域だそうです。

「今日はひととき、心の解放になりました」と教頭先生がおっしゃって下さり、ここで上演できてよかったと思いました。

(CAN 青芸・千島)

## ○ 太神楽曲芸ワークショップ

鏡味味千代(公益社団法人落語芸術協会)

於:宮城県 女川町総合運動場体育館 共催:女川町  
教育委員会 2014/11/23



女川町と当協議会は、文化芸術による復興推進に関する協定書を結んでおり、これまでも地元の要望する文化イベントの開催に協力してきました。2014年度は、教育委員会との共催で太神楽曲芸ワークショップを開催しました。20名ほどの小中学生が集まり、太神楽の曲芸を見ていただくと共に、子どもたちも、傘廻しや、ぱちを使ったバランス芸に挑戦しました。種もしかけもない曲芸のすごさに、真剣なまなざしを向け、感嘆の声をあげていました。

翌日は、地元で久々にのど自慢大会が開催され、そこでも鏡味味千代さんは曲芸を披露。地元の人たちの交流の機会に花を添えていました。(落語芸術協会・東北事務所・安達)

## ○スマイルプロジェクトによる室内楽コンサート

日本音楽家ユニオン東北地方本部 スマイルプロジェクト 代表 叶光徳

(12月4校、1月4校、2月5校 計13校で実施 岩手、宮城各1校、福島11校)

震災から4年が過ぎましたが長期化する様々な問題を抱える被災地では、このような活動を続ける団体も減り続けています。特に今年も福島県いわき市から多くの申し込みがあったということには、このことも関係があると思います。

1月に福島県いわき市の学校に行く際には福島原発のすぐ近くを通って向かいました。

浪江からゴーストタウンが続き、すべての民家や商店の前には柵が、交差点ごとに警官が立っている様子は戦争中ではないかと疑うようなものものしい光景で言葉を失いました。6号線には除染ステーションや作業員の方々の事務所など、もともとはなかった施設もあり、緊張感が漂っています。収束まで先の見えない状態です。少しでも早い収束と避難している方々に明確な今後の方向性の提示が行われることを願っています。

演奏に伺った学校からは写真や児童のみなさんからの感想メッセージを一緒にいただくことが多いです。ある学校からいただいた感想の中に、こんなものがありました。

「演奏を聴いてとても元気になりました。私も\*\*\*さん(演奏者)のように音楽家になってたくさんの人に元気を届けられる人になりたいと思います」。学校で演奏することの目的や原点を改めて思い出させてもらいました。(叶)



## ○ドルフィンマジックカンパニーによる「伝手品」公演

(公益社団法人日本奇術協会 12月、3校、2月、4校で実施。いずれも福島県内)



開催前夜に各学校の校長先生や教頭先生、ご担当の先生方との交流会を開催し、子どもたち、地域の方々の抱える課題や教職員の抱える課題等を伺いつつ、私たちの支援活動がどのように形で寄り添って行けるか、自由な意見交換の機会を持ちました。学校ごとにそれぞれではありますが、総じて言えることは、「助け合う気持ちを忘れないでほしい」「いつも感謝する気持ちをもってほしい」等、普段から当たり前のようにある言葉だけれども、なかなか実行することができないでいると云うことでした。私たちのショーでは、奇術を見せるだけではなく、こうした公演の実現には、先生たちをはじめ、いろんな人たちが準備に関わっていることに言及し、陰で支えてくれるたくさんの人のおかげでできているから感謝の気持ちを忘れないで、というメッセージを子どもたちに伝えるようにしています。「伝手品」というタイトルはそういう想いを伝えたいということをつけています。

当日の公演会場では、児童達は始終キラキラした瞳をいっぱい開いて一生懸命見られます。生でマジックショーを観る事が出来たのは本当に良かったと沢山の声を頂きました。私たちのメッセージも、届いているのではないかと思います。また、多くの方々より、「子どもだけではなく先生や大人の方達にとっても、このような活動は絶対に必要です。」ということ伺いました。これには3.11から4年。もちろん大人たちも被災されており、子ども達の傷ついた心を元通りにさせながらも、どんどん成長させていくという苦労以外に、避難している地域の方々のためにも働き続け、疲労困憊されている人もいるとのことでした。このような環境の中でも、子どもを守り地域の人たちを守ってきている親御さんや先生は本当に素晴らしいと痛感しました。(ドルフィンマジックカンパニー・横田)

## ○たかはしべんコンサート

(たかはしべん音楽事務所 11月3小学校、1幼稚園、3月1小学校、1幼稚園、1保育園 福島県7か所、宮城県1か所)



芦沢小学校の子どもたちは、たかはしべん作の「せかいじゅうの海が」を大きな声で歌ってくれました。校長先生が「合唱祭にでているんです。賞をつけない、楽しむための合唱祭です。」とおっしゃっていました。たかはしべんは、震災後、被災地の仮設住宅集会所や小学校など40ヶ所を訪問して歌う中で「東北さいこう」という歌が生まれました。今回も行く先々で歌いました。

福島原発から 30 数キロの関本小学校では、震災で体育館が倒壊し、3年前は避難していたそうですが、新築された体育館でのコンサートで、子どもたちは「東北さいこう」を大きな声で歌ってくれ、保護者さんが涙をこらえていました。

芦沢幼稚園では、近隣の船引南幼稚園の子どもたちも招いてのコンサートになりました。45分間、「おおきなかぶ」「いいの」「笑ってへいわ」などを聞きながら、たくさん笑いました。



白河市立五箇小学校では、卒業生に贈る歌として「すべては明日のために」を歌いました。この曲は、大人から子どもたちへ贈る歌でもあります。コンサート後、給食室で約 100 人の児童と一緒に食事をしました。コンサートでプレゼントした、たかはしべんの CD を聞きながらの給食でした。次回は「保護者のみなさんにも聴いてもらいたいですね」と校長先生が大変喜んでくださいました。帰りに校庭で遊んでいた子どもたちが、たかはしべんに握手を求めて駆け寄ってきました。校庭には放射能の線量計が。白河にも避難している人がいます。崖崩れなどで 12 人が亡くなって、全壊、半壊の住宅は 1000 棟に及ぶそうです。

福島県白河市東幼稚園では、終演後、園長先生から「前の園で震災に遭ったのですが、危機一髪で子どもたちを救えました。外に避難した後に園舎が倒壊しました。揺れが始まって、すぐ外に避難して助かった。東幼稚園の園庭は最近除染しました。やっと子どもたちが外で安心して遊べます。」とお話を伺いました。宮城県気仙沼のおひさま保育園でも、園長先生は、「べんさん、子どもたちは元気ですけど、親たちが疲れているんです。」と話していました。震災から 4 年、狭い仮設住宅で暮らす親子。家を流され、仕事を失い、心の持って行き場が無いのです。ささいな事で夫婦喧嘩にもなるのでしょうか。この日、おひさま保育園では、ご家族の方と一緒にコンサートでした。パパやママと一緒に、子どもたちはうれしそうでした。帰る時に女の子が、「べんさん！ギュッてして」と。そばにいた男の子にもギュッてしたら、女の子が「またギュッてして！」と、3 回もギュッてしました。「べんさん、みんなにギュッてしてあげてください。おばさんにも、おじさんにも」と理事長さんが言って、理事長さんもギュッてしました。大人も元気づけることができましたが、また来なくては、と思いました。  
(たかはしべん音楽事務所・森田)

## ○「おはやし劇場だだすこだんだん」公演、表現あそびワークショップ

(ただじゅん企画 多田純也 釜石市仮設住宅、亘理町復興イベント亘理ホームカミングデー、岩沼市総合福祉センター・あいプラザ、NPO ホームひなたぼっこ)

震災後、東京から岩手、宮城、福島の被災地に出向き、保育園や児童館、子育て支援団体や仮設住宅などを訪れ、子どもたちへの公演やワークショップなど、月 1 回ぐらいのペースで通っています。今回、芸団協派遣で 12 月から 3 月にかけて、4 か所を訪問しました。



12月28日、岩手県釜石市甲子仮設住宅の年末餅つき行事の子どもステージで、太鼓のワークショップと「おはやし劇場だだすこだんだん」を行いました。仮設住宅とその近隣で暮らす人々が、共に思い出をつくり、つながりをもてるようにと北上市のNPO法人handsの協力で仮設住宅自治会が企画したイベントへで、この日は社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さんと学生さんたちも来ており、その模様

は、先日NHKの「明日へ-復興サポート」でも放映されました。

3月に訪れた岩沼市では、岩沼保育ママの会に協力して「ただじゅんのあそびっこ」を開催。表現遊びと、獅子舞などの「ミニ公演」、幼児から小学生36名を含む71名のおやこが参加。お父さんの参加も多かったです。会場となった岩沼市総合福祉センター・あいプラザ大会議室のとなりには、仮設住宅が立ち並んでいました。NPOホームひなたぼっこは、幼児の保育と、高齢者デイケアを同じ場所で一緒に行っている施設です。「おはやし劇場だだすこだんだん」は、子ども20名、高齢者30名、ケアにあたっている方々を含めると総勢60名ほどが参加しました。午後には、ひなたぼっこ 二木地域交流サロンでもミニ公演を行い20名ほどが参加しました。

震災後4年が経過しましたが、感じていることの一つは保育士や教師、福祉関係や行政に関わる職員の方たちの疲労度が高いということ。私は心理学の専門家ではありませんが、阪神淡路震災の経験からも、3年目以降はケア者のケアだといわれたと聞いていますので、まさにその時期を迎えている感じがします。岩手、宮城の海沿いを走ると、津波のあと、がれきだらけだった国道沿いには盛り土工事が進行中で新しい店舗がたち、材木や家の屋根が浮かんでいた湾の水面には牡蠣養殖の筏がうかんでいます。また福島では原発事故のあとのいまだ居住制限区域であるにも関わらず、国道や高速道路がつぎつぎと開通しています。たしかに見た目には4年過ぎて変わってきた景色があります。しかし、そこで暮らす方たちとふれあう中で感じるの、精神的な震災被害は、むしろ深刻になっているのではないかとことです。私のような実演家が被災地のためにできることは少ないですが、舞台の仕事をしていてよかったと思うのは、子どもたちの素直な反応ももちろんですが、大人も舞台をみていただいた後には、精神的な距離が近くなったように感じていただけなのか、率直なおはなしをうかがえる事が多いことです。心の中に鬱積していることを口にすることができるだけで、少しだけでも気持ちを軽くしていただけるのではないかと思います。

(多田純也)



【実施概要一覧】

月日	県	開催場所	派遣団体名	内容
7月27日	福島県	田村市立西向小学校	CAN 青芸	演劇公演『君がいるから』
11月23日	宮城県	女川町 総合体育館	鏡味味千代(落語芸術協会所属・BBI)	鏡味味千代・太神楽ワークショップ
11月25日	福島県	田村市立菅谷小学校	たかはしべん音楽事務所	たかはしべんコンサート
11月26日	福島県	田村市立芦沢小学校		
11月26日	福島県	田村市立芦沢幼稚園		
11月27日	福島県	田村市立関本小学校		
12月5日	福島県	相馬市立山上小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(宮地夏海/長谷川康/針生奏子)	室内楽コンサート
12月5日	福島県	相馬市立大野小学校		
12月16日	岩手県	宮古市立田老第一小	日本音楽家ユニオン東北地方本部(戸田博美(tp)/熱海千穂(Pf))	室内楽コンサート
12月17日	宮城県	気仙沼市立小泉小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(池田緋沙子(FI)/渡邊千晶(Pf))	室内楽コンサート
12月18日	福島県	三春町立岩江小学校	ドルフィン・マジックカンパニー(日本奇術協会)	「伝手品」公演
12月18日	福島県	三春町立中郷小学校		
12月19日	福島県	三春町立中妻小学校		
12月28日	岩手県	釜石市甲子仮設住宅	ただじゅん企画	「おはやし劇場だだすこだんだん」公演、表現あそびワークショップ
1月21日	福島県	いわき市立平第四小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(塚野淳一/叶光徳/山形佑輔)	室内楽コンサート
1月21日	福島県	大野第一小		
1月22日	福島県	平第五小学校		
1月22日	福島県	平第一小学校		
2月6日	福島県	いわき市立小白井小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(叶光徳/櫻井希/門脇麻美)	室内楽コンサート
2月17日	福島県	いわき市立長倉小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(戸田博美/小田嶋麻紀子)	
2月17日	福島県	いわき市立中央台北小学校		
2月22日	宮城県	亘理町仮設住宅	ただじゅん企画	「おはやし劇場だだすこだんだん」公演、表現あそびワークショップ
2月24日	福島県	いわき市立菊田小学校	日本音楽家ユニオン東北地方本部(池田緋沙子(FI)/山形佑輔(Pf))	室内楽コンサート
2月24日	福島県	いわき市立久之浜第二小学校		

2月25日	福島県	白河市立ひがし幼稚園	ドルフィン・マジックカンパニー	「伝手品」公演
2月25日	福島県	白河市立小野田小学校		
2月26日	福島県	中島村立中島幼稚園		
2月26日	福島県	矢吹町立中畑小学校		
3月5日	福島県	白河市立五箇小学校	たかはしべん音楽事務所	たかはしべんコンサート
3月6日	福島県	白河市東幼稚園		
3月7日	宮城県	気仙沼 おひさま保育園		
3月15日	岩手県	岩沼保育ママの会	ただじゅん企画	「おはやし劇場だだすこだんだん」公演、表現あそびワークショップ
3月16日	岩手県	特定非営利活動法人ホーム ひなたぼっこ		

芸団協では2011年度より＜震災復興に文化芸術を基金＞を設置し、寄付を募っています。これまでに多くの方々からご寄付をいただき、震災復興プロジェクトの実施に使わせていただきました。2014年度に寄付をお寄せくださった方々は、下記のとおりです。

＜震災復興に文化芸術を基金＞2014年度寄付者

株式会社エス・シー・アライアンス (ほか匿名多数)

2014年度の事業は、一般社団法人私的録画補償金管理協会からの助成および、オンライン寄付サイトGIVE ONEを通じてご寄付くださった方々のご支援を得て実現しました。

皆様のご支援をお願いいたします。金融機関で直接お振込みいただく場合は下記口座へお振込みください。

＜震災復興に文化芸術を基金＞

みずほ銀行 支店名：新宿新都心支店(209) 普通 口座 1494755

口座名義 公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 震災復興に文化芸術を基金

シャ)ニホンゲイノウジツエンカダントアイキョウギカイ

シンサイフッコウニブンカゲイジュツオキキン

インターネット上でクレジットカードをご利用の方は、**GIVE ONE**サイトをご活用ください。

<http://www.giveone.net/>



GEIDANKYO

【お問合せ】公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 [芸団協]

163-1466 東京都新宿区西新宿 3-20-2 11階

tel:03-5353-6600 fax:03-5353-6614

E-mail: support@geidankyo.or.jp